

論文審査の結果の要旨

平成 29 年 2 月 17 日

氏 名：馬 小力

論文題目：清末における日本留学の中国人女性像

—奉天省が派遣した女子留学生を中心に—

馬小力学位請求論文「清末における日本留学の中国人女性像—奉天省が派遣した女子留学生を中心に—」は、周一川などの先駆的研究を周到に踏まえ、これまで十分注目されてこなかった日本への清末の女子留学生の実態を明らかにした、中国女性近代史、日中女性留学交流史の空白部分を埋める重要な研究である。

清末の一九〇七(明治四〇)年、奉天省が日本の実践女学校に官費派遣した二三人の女子留学生の留学の背景、留学教育の内実、留學生活の風景について新資料を発掘し精緻な分析を行い、中国女子留学生が日本で受けた女子教育の意義を浮き彫りにしている。

全七章中、特に第二章「女子留学生の人数と名簿をめぐる再検証」、第三章「奉天が派遣した女子留学生の留学実態」は、清末の奉天省からの女子留学の事実を実証的に確定し、今後の研究の基礎を築くものとなっている。第四章「留学生遺族へのインタビュー調査：崔可言の日本留学とその後の軌跡」は、二十三名の女子留学生の中から崔可言を抽出し、遺族へのインタビューを行ない、崔可言の帰国後の軌跡、教育、家庭、社会での貢献を明らかにしたもので、歴史的に著名な女子留学生像だけではなく、多様な女子留学生像を提出し、テーマを徹底して展開し秀逸である。また第五章「日本社会やメディアに映された中国人女子留学生像」は今後の中国女子留学生研究に新たな視点を開拓している。

巻末に参考資料、付録を付し、的確で充実した構成と体裁を備え、学位請求論文の水準に十分に達した充実した研究であり、今後、当該領域における必読の基礎文献となるものとして評価しうる。

平成 29 年 2 月 17 日に実施された口述試験では審査員の主査、副査による多方面からの質疑に対して的確に応答し、自身の構想、テーマを明確に述べることができた。また今後の発展的な課題への質問に対しても適確に受け止め、積極的に取組んでいく姿勢と強い意欲を示した。

審査員全員から本論文が日中連携の在学の意義を示す論文であり、今後の研究のさらなる発展が期待される学位請求論文であるとの高い評価を受けた。

主査：人文科学研究科 水田 宗子
副査：人文科学研究科 北田 幸恵
副査：人文科学研究科 三木 紀人
副査：大連理工大学 杜 鳳剛
副査：東北大学 王 秋菊